

『奇兵隊日記』に見える

幕末維新期に活躍した旧徳山市域内の群像

会員 小林省三

幕末維新期に「奇兵隊員」として活躍した旧徳山市域内の群像の一部を『徳山地方郷土史研究』第二三号と第二四号で紹介した。

本稿では、未紹介の群像全員の「記録部分」を抜粋した。

1 井上唯一

徳山藩士（和彦、和暢、喜一郎、安祐、

虎之進、彦太郎、郡太、子達）

○慶応元年六月十六日沙汰相成候分

遠藤 春岱

右赦免

右目附役より政府密用懸り

右勤懸より政府同断

右赦免

浅見 栄二郎

増野友左衛門

江邨純一郎

浅見 修次

松岡歛左衛門

飯田 信

入江弥源太

六月十七日沙汰相成候分

梅地 央

福間 一内

右遠慮親子兄弟同姓之外相对被差留候

右当職

熊谷 志登美

森 主水

水津 余一

右一代進格家老当職

右役儀被差代先遠慮親子兄弟同姓之外相对被差留候

福間 式部

岩崎仁左衛門

粟屋 多炊

右評定役被差代候

右当職被差免加判役

塩川 順藏

桜井龍右衛門

右役儀被差代遠慮

右勤掛りより政府密用懸り

岩崎 謙同

光井左馬之允

庄原 登美衛

井上 佐市

右宅帰り之上当分慎罷居候分

渡辺 新三郎

以上

右赦免

松岡 修作

富山 要人

右奇兵隊より御呼返シ御登用

本田 和多利

断絶ニ付家筋御取建候分

井上 誠兵衛

兒玉次郎彦 跡

右押隠居親子兄弟之外相对被差留、於宅親類預ケ

河田 健藏 跡

信田作太夫 跡

帰島之上家筋御取建

井上 唯一 跡
本城 清 跡
林 謹 次

2 内山国男(内田五郎)

徳山藩士(久米之進、正太郎)

○文久三年十月四日 朝曇天

当直 古賀牧太・中島壮輔・堀弥四郎・内田五郎

○文久三年十月七日 曇天

一高橋貫助・久保田卯一郎・内田五郎 宮市行

○文久三年十月十八日 晴

一藤崎東過ル十五日之夜狼狽致、武士道を失候廉
有之、本陣ニおゐて慎申付、内田五郎其外一伍

右詰番之事

○文久三年十月廿六日 晴天

一御七卿様山口氷上山へ御転居居被遊候ニ付、朝
正五ツ時本陣揃、各帯甲冑得武具所持、行軍之

躰ニて致御供候事

一行軍備之次第

仏蘭西 ホース 内田五郎

遠物見 野戦砲 一伍銃隊一隊 弓隊 纏

付属三人 人夫五人

御馬伍幡相凶 小荷駄 銃隊 野戦砲 狙撃隊

人夫五人 式伍

総管 本陣詰并諸役人 槍隊

○文久三年十一月七日 晴

一佐々木五右衛門・井町武三・内田五郎(他省略)

右之人数(二十名) 大島郡上之関辺農兵西洋銃

陣引立、且地理研究之為差越候事

○慶応三年三月十日 晴

一山崎隊より内田五郎來

3 小方謙九郎(横山謙吉)

都濃郡栗屋村温品良左衛門二男(弘徳 栗山)

○文久三年十一月五日

一小方謙九郎其外五人、有故て縛

○文久三年十一月九日 晴

一 榑崎剛十郎・松宮相良・小方謙吉・大本常雄・

阿曾沼東馬・松本豊太、右奇兵隊入、諸隊へ致

通達候事

○文久三年十一月十五日 晴

一天宮慎太郎要用有之、平尾辺へ罷越、松宮相良・

榑崎剛十郎・小方謙九郎等同道之事

○元治元年正月廿日 雨

一 山本勘助・小方謙九郎探索より帰陣の事、但九

州行

○元治元年四月朔日 晴 月食

一 小方謙九郎今日より帰省

4 渡辺九八

都濃郡小畑農五兵衛倅、冷泉雅二郎小者

○元治元年二月七日 曇天

一 重枝信之進・渡辺九八帰省、附属之伍中也

○元治元年三月朔日 晴

一 附属渡辺九八隊中差除候事

5 中川二郎

都濃郡須々万村善徳寺発意(次郎、治郎)

○明治二年二月十四日 雨天

一 中川次郎帰省中不束之次第有之候間、慎被申渡

候事

○明治二年廿一日 晴天

中川二郎

右、此内慎被申渡置候処、兼て足痛相煩令難儀候

二付、為療養入浴之儀病院より申出有之慎中之儀

二ハ候得共、病氣之次第無余儀事二付、七ツ時已

後入浴被差免候事

○明治二年二月廿四日

一 中川次郎・磯野熊蔵

右、去冬三田尻分散後、中野慎一・大吞政吉両

人中ノ閑罷越抜刀乱暴相働候節、令同席不始末

之次第二付、此内慎被申渡置候処、此度之儀ハ

格別之訳を以被差免候、已後屹度相嗜候様被申

渡候事

○明治二年四月四日 晴

一 中川治郎帰陣ス

○明治元年四月二十九日 晴天

一 里嶋三省昨夜海津駅残置候処強て当地へ罷越、

又々病氣相重、井石和吉・西郷運蔵・依義復と

四人当地残置候事

6 横田数馬

都濃郡湯野村社人

○明治二年四月十四日 晴

一 横田数馬帰陣之事

8 瀧山克巳

堅田健助内 大組士(怒)

○元治元年十二月廿三日 曇

一 戸田藩臣福永得三・福永元之祐・瀧山克巳・村

上牧太、脱走入隊願出候二付、槍隊へ留置候事

7 西郷運蔵

堅田健助内 大組士西郷安宅二男(運三)

○慶応三年十一月廿四日 晴

一 西郷運蔵入隊願出候二付、三番小隊へ留置候事

○明治元年四月六日 晴天

朝大聖寺発途、五里小松へ着陣ス

一 病人里嶋三省・井石和吉・西郷運蔵・依義復全

快ニ付駈付帰ル、其段惣会計局へ相達ス

9 竹田周三郎(武田周三郎)

堅田健助内 徒士 津田亀吉 育

○明治二年二月廿一日 晴天

一 竹田周三郎帰陣

○明治二年十月十八日

一 武田周三郎三番砲隊照準者見習被申渡候事

○明治二年十月廿二日 晴

直 武田周三郎

○明治二年十一月九日 晴

直 竹田周三郎

10 福永得三

堅田健助内 家老福永 孚嫡男

○元治元年十二月廿三日 曇

瀧山克巳参照

11 福永元之祐(福永三男)

堅田健助内 家老福永 孚三男

○元治元年十二月廿三日 曇

瀧山克巳参照

○慶応元年五月十二日

一 福永三男外十二名、右趣有之 先慎被申渡候事

○慶応元年五月十四日

一 中野慎一・内藤九郎・高木小蔵・福永三男・入

江莊助・船木良蔵・岡村小太郎・渋谷半之允、

慎被差免候事

○慶応元年六月三日 雨

一 福永三男・蔵田武熊・吉田虎次郎、郷里へ帰ル

○慶応元年十二月十九日

一 福永三男外五名、右各除隊之事

参考文献

『定本奇兵隊日記』上・中・下・人名索引

一九九八年三月一日発行

発行所 マツノ書店